

2024年5月17日（金）

## 函館どつく、世界海事大学（WMU）の研修受け入れ

5月14日に、日本財団の奨学事業である世界海事大学（WMU）の研修プログラムの一環として、函館どつく株式会社函館造船所にて奨学生30名の研修受け入れを行いました。研修会では当社の沿革や事業の紹介、ならびに構内見学を行い活発な質疑応答で日本の造船技術や海事産業への理解を深めていただきました。

また本研修には北海道新聞様が同行し、5月17日付の同紙面（地域版）でその様子を紹介いただいております。（次ページに掲載記事を抜粋）

世界海事大学（WMU）は1983年に国連の国際海事機関（IMO）によって設立された大学院大学で、世界中の海事・海洋関連組織で働く公務員を主な対象に、日本財団が奨学金を提供している事業で、毎年日本に奨学生を招聘しています。



研修・構内見学の様子



握手を交わす齋藤所長と奨学生代表

（次ページに掲載記事を引用します）

**HAKODATE  
DOCK**

北海道から世界へ。ここにしかない「ものづくり」。

# 22カ国の学生 造船見学

## 函館どつくに「海事大」30人

発展途上国の海事専門家養成のため、国連の国際海事機関（IMO）が設立した世界海事大（スウェーデン）に在籍する22カ国の学生30人が14日、函館どつく

函館造船所（函館市弁天町）を訪れ、造船技術に理解を深めた。

同大ではアフリカ、東南アジアなどの公務員や教員らが法律や貿易、環境保全などの海洋政策を学ぶ。今回の来日は日本財団の奨学金プログラムの一環で、12日から8日間の日程で室蘭、新潟など各地でフィールドワークを行っている。

函館どつくでは新造船部門の主力であるばら積み貨

物船の建造作業を見学。学生たちは「二酸化炭素排出削減の対策は」「新型コロナウイルス禍の影響はあったか」などと活発に質問していた。

ナイジェリアで日本の海上保安庁にあたる機関に勤務するアデタヨ・アデソカンさん(39)は「1隻の貨物船を数カ月で建造するという生産能力の高さに驚いた」と話していた。一行はこの日、函館市国際水産・海洋総合研究センターも訪れ、漁業についても学んだ。

（中橋邦仁）

函館どつくで建造中のばら積み貨物船を見学する世界海事大の学生たち

